

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025 年 2 月 8 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2 年生
帰国年月日	2025 年 2 月 4 日
明治大学卒業予定年月	2027 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	ヨーク・セント・ジョン大学(日本語名) York St John University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2024 年 9 月～2025 年 2 月
留学先大学で在籍した学年	2 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月下旬～12 月下旬 2 学期: 1 月上旬～2 月上旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	約 6,300 人 (学部生のみ)
創立年	1841 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ポンド)	日本円	備考
授業料	0	0 円	協定留学のため。
宿舍費	2,375	468,000 円	
食費	450	89,100 円	
図書費	0	0 円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費	57	11,000 円	
現地交通費	0	0 円	(☒ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	210	40,000 円	
被服費	0	0 円	
医療費	0	0 円	
保険費	236	46,760 円	形態:留学海外旅行保険
渡航旅費	1,515	300,000 円	帰国便変更のため値段が上がった。
ビザ申請費	128	24,514 円	
雑費	0	20,000 円	
その他	1,050	200,000 円	旅費
その他	0	0 円	
合計	6,021	1,199,374 円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田空港 目的地:マンチェスター空港 経由地:シャルル・ド・ゴール空港

復路 出発地:マンチェスター空港 目的地:羽田空港 経由地:シャルル・ド・ゴール空港

渡航費用

- ① 往復チケットを購入した場合
航空会社:KLM オランダ航空

料金:297,600 円(購入時の価格)
帰国日の変更に伴い、便を変更したためその後追加料金を支払った。

- ② 片道ずつチケットを購入した場合
往路 航空会社: 料金:

復路 航空会社: 料金: ∴合計:

航空券購入方法

- ☐ 旅行代理店(店名:)
- ☒ インターネット(サイト名:KLM オランダ航空)
- ☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)

☒ 学生寮(寮の名前:The Grange: Cruse House) ☐ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

留学先大学からの斡旋。
留学生は学生寮に入寮することが求められていたため、自分で住居探しなどはしなかった。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

寮は比較的綺麗で、自分のスペースが確保されているため、リラックスすることが出来た。
水回りとキッチンを他者と共有することに抵抗がない人であれば問題ないと感じた。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☒ なし

☐ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

外務省の「たびレジ」に事前登録しておくことで、現地の危険地域情報を集めていた。また、盗難に関しては、被害に遭うことはなかったが、貴重品を持ち歩く際は基本的にチャック付きのカバンにしまうことで対策を行っていた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

特に問題はなかった。大学の wifi が制限はあるが、街でもある程度接続が可能であった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地での口座開設は行わず、日本から持参したクレジット／デビットカードを併用していた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

ヨークにはアジアマーケットが何店舗ありますが、基本的に韓国や中国製品が主であることや日本と比較して販売されている日本製品が非常に高価であることから、できる限り事前に持っていくことをお勧めする。私の場合は、日本からふりかけや出汁、鰹節、麺つゆなどを持参した。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
60 (ECTS)単位	☒ 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☐ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Key Concepts for TESOL	TESOL における重要な概念
科目設置学部・研究科	School of Education, Language and Psychology
履修期間	1 学期
単位数	20 ECTS
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー／セミナー形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 60/120 分が 1/1 回
担当教授	Prof. Christopher J Hall / Dr Indu Meddegama
授業内容	TESOL において重要とされる概念や考え方、例えば English と Englishes の違いがなんであるか等について学び、英語教育の基礎知識を養う。
試験・課題等	小テスト×2(評価対象外)／e-portfolio (2,000 words)
感想を自由記入	レクチャーとセミナーの講師が異なっている授業で、日本では中々ない形式であるため、新鮮だった。セミナーの先生はスリランカ人であったため、インド英語に近い訛りがあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
TESOL: Foundations of Second Language Acquisition and Teaching		TESOL: 第二言語習得と教育法の基礎
科目設置学部・研究科	School of Education, Language and Psychology	
履修期間	1 学期	
単位数	20 ECTS	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	レクチャー／ワークショップ形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60/120 分が 1/1 回	
担当教授	Dr Mattia Zingaretti	
授業内容	第二言語習得についての主要な知識を養うと同時に、第二言語に関するデータ分析を行い、第二言語教育において TESOL が果たす役割について学ぶ。	
試験・課題等	データ考察型レポート／批評型レポート	
感想を自由記入	アメリカ英語を話す講師の形であるため、アメリカ英語教育を受けてきた私にとっては非常に聞き取りやすい英語であった。講義内でクラスメイトと話し合う時間を設けているため、他の生徒と仲良くなりやすかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Attitudes to Language		言語態度
科目設置学部・研究科	School of Education, Language and Psychology	
履修期間	1 学期	
単位数	20 ECTS	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	レクチャー／ワークショップ形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 60 分が 3 回	
担当教授	Dr Clare Cunningham	
授業内容	言語態度について、言語消滅や多言語主義といった様々な側面から考察する。	
試験・課題等	final post(1,000 words)を含めた 8-10 posts(350-400 words)	
感想を自由記入	私以外の交換留学生在が受講している様子はなく、少しハードルが高いかと感じたが、ユーモアに溢れている先生で毎講義楽しく受けることができた。授業前の reading を求めず、講義の中で reading retreat という時間を設けているため、予習の必要は特になかった。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☒就職 ☐進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	TOEFL ITP／海外留学制度説明会／留学報告会(体験談)
	8 月 ～ 9 月	TOEFL／協定留学説明会
	10 月 ～ 12 月	TOEFL／出願書類作成／出願
留学開始年	1 月 ～ 3 月	留学先大学への出願／奨学金出願・面接
	4 月 ～ 7 月	TOEIC／ビザ申請・取得／航空券購入／履修登録／予防接種
	8 月 ～ 9 月	留学開始
	10 月 ～ 12 月	中間課題／冬休み
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	冬休み／期末課題／帰国
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私がイギリスのヨーク・セント・ジョン大学を留学先として選択した理由は、自身の学部で学んでいる学習内容の発展、また自身の将来の目標につながると考えたためです。私は現在、明治大学で国際日本学部在籍し、1年時から日本語教育人材育成プログラムという日本語教育者としての基礎を学ぶプログラムに参加しています。留学前の1年春学期から2年春学期にかけて、日本語の文法や語彙、言語としての教育方法、また日本の古典文化・ポップカルチャーについて学習していたのですが、教育学や言語学に関しては学習経験が浅いため、この留学を通して土台となる基礎知識を身につけたいと考えました。日本の大学でも、もちろん教育学や言語学、日本語や日本文化については学習することが可能ですが、他の国で、日本語や日本文化が外国人に実際にどのように捉えられているのか学び、考えを深めたいと考えました。

ヨーク・セント・ジョン大学を選んだ大きな理由としては、この大学には教育学や言語学を学ぶことのできる環境が整っているだけでなく、専攻に日本語コースがあり、日本語を言語として学習している生徒が在籍していることから、日本語を第二言語として学ぶ日本語学習者に近い環境で学ぶことができると考えたためです。私よりも前に留学された先輩方の留学報告書などを見ると、日本語コースの授業にボランティアとして参加することが可能であるという記述もあったことから、今大学への留学を志しました。実際に、留学を通じた日本語を第二言語として学ぶ生徒との交流は、私にとって日本語や日本文化が他国でどのように捉えられているのかを直に感じることができる貴重な経験となりました。



留学生生活、特に大学生活については、特定の学部・コースに所属する必要はありませんでしたが、私の場合学びたい分野がはっきりと定まっていたことから、1つの学部・コース(English Language, Linguistics and TESOL)に絞った講義を受講していました。そのおかげで、複数同じ授業を受講している現地生徒が多くおり、授業でのディスカッション等を通じて仲良くなることができました。留学先での人間関係、関係構築に不安がある人は、私のように1つのコースに絞る必要はないかもしれませんが、自らディスカッションの時間に積極的に話しかけてみるといいと思います。また、societyと呼ばれる日本の大学でいうサークルのようなものに所属してみるのも良いかもしれません。日本の他大学から留学に来ている生徒や日本文化に興味関心の高い現地生徒との交流を行うことができました。societyは受講している講義が被っていない生徒とも交流することのできる非常に良い場であると考えます。

留学先の環境については、ヨークはイギリス国内でも非常に治安が良く、長年住みやすい街として挙げられるほど素敵な街です。街並みはもちろん、ヨークで暮らす多くの人は非常に友好的で、ヨークの街中で差別に遭うということは中々ありませんでした。しかしそれでも、二度ほど自身が差別の対象として扱われる場面がありました。日本にいれば、自身の身の回りの多くの人は「日本人」ですが、留学先ではそうではありません。当初は、少しカルチャーショックでしたが、あまり気にせず、自身の身の回りにおける自信を気づてくれる友人を大切にしたいと思います。



留学は何もかもが新しいことで満ち溢れていて、全てが貴重な経験になります。私自身、留学に行ったからこそ出来たことが多くありました。逆に出来なかったことももちろんありますが、それを全て含めて留学に行くことができ本当に良かったと考えています。留学を志している方や、これから留学に行かれる方には、限られた時間を存分に使ってほしいと思います。